

主の昇天

2014.6.1

マタイ 28・16-20

今日、私たちは主の昇天の祭日を祝っています。教会において祝われるこの祭日が、カトリック信者としての私たちにどのような喜びをもたらす祝祭日であるのか、そのことをあらためて心のうちに思いめぐらし、噛みしめながらこの感謝のミサをともにおささげしたいと思います。

今日、私たちが祝う主の昇天の祭日は、言うまでもなく、今日の第一朗読の使徒言行録に語られている出来事を祝う祭日です。けれども、そのことがそれぞれの日々を生きる私たちにどのような喜びをもたらすのかということが、私たちにしっかりと受け止められていなければ、心の底からこの祭日を祝うことが出来ません。逆に言えば、今日私たちが祝っているこの祭日が、私たちの心を喜びで満たすなら、私たちはカトリック信者としての信仰の喜びを自分のものとしているとも言えるでしょう。

福音書に語られているイエスのご生涯の最後は、十字架に架けられて死ぬという形で閉じられます。十字架から降ろされたイエスの遺体は、最後までイエスにつき従った数人の婦人たちが見守る中、刑場近くの墓に葬られたと福音書は語っています。十字架の死という特異さを除けば、マリアの子としてこの地上にお生まれになったイエスのご生涯は、この地上に生を受けた全ての私たちの一生と同じようにそこで終わったのです。けれども、イエスの地上のお姿を追ってきた福音書は、そこで終わるのではありません。私たちが知っているように、十字架の上に死んで、墓に葬られたイエスは、予ねて言われていたとおりに、復活されて、弟子たちに復活のご自分のお姿を現してくださったのです。これは地上の生活を終えたイエスのいわば後日談として語られているのではありません。福音書はその始めから、私たちに罪と死の闇から救うために、ご自分のいのちをささげて十字架の上に死なれ、復活された神の子、私たちの主イエス・キリストのお姿を私たちの心に焼き付けることを意図して書かれているのです。

福音書に語られている復活されたイエスは、たびたび弟子たちにお現われになって、信じることが出来ないでいる弟子たちに、ご自分が復活されたことを示されます。今私たちが聴いたマタイ福音書は、そのような復活されたイエスの弟子たちへの最後の現われの場面を語っています。そして、弟子たちに対する復活されたイエスのこの最後の現われの場面をもって、マタイ福音書は閉じられています。

けれども、マタイ福音書をこの終わりまで読んできた人は、この終わりをもって、マタイ福音書の中に語られてきたことが終わったのではないことに気付くはずです。

「わたしは世の終わりで、いつもあなたがたと共にいる。」これが、マタイ福音書を締めくくる、復活されたイエスの最後のおことばです。そして、このおことばは復活されたイエスのおことばとであるがゆえに、そこで言い表されているとおりに、この世の時空を越えて、世の終わりに向って響くイエスのおことばです。マタイ福音書の作者はそのような意図をこめて、このイエスの最後のおことばを書き記し、それをもって、筆を置いたのです。

マタイ福音書が書き残した、イエスのこの最後のおことばは、どのようにして、世の終わりに至るまで復活されたイエスのおことばとして響き続けるのでしょうか。

「わたしは世の終わりまで、あなたがたと共にいる。」という最後のおことばに先立って、イエスが弟子たちに語られたおことばを、今日の福音の中で私たちは聴きました。そこには次のようなおことばが響いています。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、全ての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなた方に命じておいたことを全て守るように教えなさい。」このようにして、イエスのあの最後のおことばは、世の終わりまで響き続けるのです。

復活されたイエスは、今や、父なる神の御許に昇って、その右の座に就いておられます。これが、日曜日のミサの度ごとに私たちが唱えている、私たちの主イエス・キリストに対する私たちの信仰宣言です。父である神の御許に昇って、その右の座に就かれたイエスは、父である神から天と地の一切の権能を授けられたお方として、私たち全ての者のメシア・救い主、イエス・キリストとされたのです。そのイエスに遣わされた弟子たちの働きを通して、復活され、天に昇られたイエスをメシア・救い主キリストと信じる者たちの教会が誕生したのです。その弟子たちから始まる教会において洗礼の恵みを受け、イエスが弟子たちに託された教えを受け入れた、世の終わり至るまでの全てのキリスト者の心のうちに、イエスが弟子たちに残されたあの最後のおことばは響き続けているのです。こうして、福音書の中に記されているイエス・キリストは、あのおことばのとおり、今ここに生きる私たちの人生に関わるお方となってくださったのです。カトリック信者として生きる私たち一人ひとりの人生に共にいてくださるお方となったのです。今日私たちが祝う主の昇天の祝いは、このことを祝っているのです。

天に昇って、父である神の右の座に就かれたメシア、イエス・キリストは、

今日の使徒言行録の昇天の物語に語られているように、そして、私たちがミサの中でその信仰を宣言しているように、再び私たちのもとに来られ、私たちの全てを最終的に裁いてくださいます。このことも、今日私たちが祝うイエスの昇天の中に含まれている信仰の神秘です。

最後の審判を意味するこの信仰宣言のことばは、私たちに恐れを感じさせるかも知れません。けれども、果たしてそうなのでしょうか。

もう一度、今日のマタイ福音書のイエスのおことばを思い起こさなければなりません。「あなたがたは行って、全ての民を私の弟子にしてください。彼らに洗礼を授け、わたしが命じておいたことを全て守るように教えなさい。」このように言われたイエスが私たちの全てを最終的に裁いてくださるのです。イエスへの信仰によって、イエスの弟子となった私たちの全てを裁いてくださるのです。そのイエスは、「世の終わりまであなたがたと共にいる。」と言ってくださるイエスです。この世に生きる私たちの、それぞれの人生の中で経験するすべてのことの最終決着は、私たちとともにいて、私たちの全てを知っていてくださる、世の終わりに向かって生きる全ての者のメシア、救い主イエス・キリストのみ手に委ねられているのです。このような信仰は、私たちの人生の全ての日々に、信仰に基づくあるべき緊張感を与えると同時に、言い知れぬ解放感をもたらすものではないでしょうか。私たちが生きる人生がどのように終わろうとも、私たちの人生の全ては、私たちとともにいて、そのすべてを知っていてくださる主イエスの御手のうちにあるのです。

全てを、父なる神の右の座におられる私たちの主イエスのみ手に委ね、その主に従う信仰者としての日々を生きる恵みを願って、主の昇天を祝う今日のミサをおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高